

# 木育に着目したワークショップ「子どもの椅子づくり」について

A Workshop Titled “Making Chairs for Children” focused on “Moku Iku”

林 韓 燐

Hanseop Yim

## (要約)

三重県の子育て家庭の親子を対象に「津市美杉町の間伐材を活用した子どもの椅子づくり」というワークショップを実施した。このワークショップは三重県の「森林環境教育・木育の推進」「野外体験保育」の基本的考え方に基づき、地域の森林環境と資源について理解するきっかけを提供することを目的とした。この木育活動を通して森林環境の理解の向上を図るとともに、親子でモノづくりを楽しみ、子育てにおいて地域資源を魅力的に活用することができたと考えられる。また、参加者アンケートではワークショップ実施内容および意義に対し高く評価され、木育活動を通して森林環境教育の効果が高まる結果となった。

## (キーワード)

木育、子どもの椅子、森林環境教育

## 1. はじめに

近年、木育に着目した教育活動が注目され、多くの活動が展開されつつある。本研究の基盤となる三重県では2014年4月から「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めている。また、三重県の森林づくり基本計画に基づき、森林環境教育の機会を拡大する取り組みの中、力を入れているものとして「森林環境教育・木育の推進」が挙げられる。「森林環境教育」は、森林の中で様々な体験活動等を通じて、森林と人々の生活や環境との関係についての理解と関心を高める教育活動である。「木育」は子どもから大人までを対象に、木材や木製品とのふれあいを通じて木材への親しみや木の文化への理解を深め、木材の良さや利用の意義を学んでもらうための教育活動として定義されている(三重県、2019)。また、2015年3月には「希望がかなうみえ子どもスマイルプラン」を策定し、子どもの豊かな育ちを基本とした子育てを推進しており、「野外を中心に、地域の自然を活用し体験活動を取り入れた保育や幼児教育」を「野外体験保育」と定義し、普及を進めている(国土緑化推進機構、2019)。「森林環境教育・木育の推進」「野外体験保育」を通じて、子ども自らが考え、主体的に行動し、他者とかかわる中で「生き抜いていく力」を育むことがこれらの取り組みのねらいといえる。

このように人間形成の基礎が培われる幼児期に、「森林環境教育・木育の推進」「野外体験保育」を通じて豊かな感性と心を養い、創造力を高めるよう支援することが非常に重要である。そのため、子どもの主体的遊びが広がる魅力的な森林環境での体験と木育の実践は、子どもをはじめ子育てをしている家庭にとっても有効であると考えられる。そこで、本研究では、三重県で推進している「森林環境教育・木育の推進」「野外体験保育」の基本的考え方に基づき、子育て家庭の親子が木育活動を通して地域の森林環境と資源について理解するきっかけを提供することを目的とし、その木育活動として「津市美杉

町の間伐材を活用した子どもの椅子づくり」というワークショップを開催することとした。この体験を通して森林環境の理解の向上を図るとともに、地域資源である間伐材を子育てに取り入れ、親子でモノづくりを楽しみ、愛着を持って使い続けることが期待できる。また、子育てにおいて地域資源を魅力的に活用できるよう木育の実践の場を広げていくことをねらいとする。

## 2. 木育活動の目的及び実践方法

### 2-1 木育活動の目的

2014年から、「地方創生」が掲げられ、地方の人口減少に歯止めをかけるために、地方による主体的で独創性のある取り組みへの支援が強化された。その中で、地方での子育ての魅力を発信するために、「森と自然を活用した保育・幼児教育」に取り組む自治体が増えてきた（国土緑化推進機構、2019）。このような動向の中で、「森と自然を活用した保育・幼児教育」は全国的に注目を集めることとなった。これらの取り組みを皮切りに、子どもが木に触れる機会が増え、全国各地では間伐材等の自然環境を活用する取り組みが活発に行われることとなった。しかしながら子どもが遊びの中で自然環境に触れ合う機会は増えつつあるが、子育て中の保護者が体験できる木育活動は数少ないのが現状である。

本研究は、木育の概念に基づき、子育てにおける木育活動の領域を広げることとし、親子でオリジナルの子どもの椅子をデザインし、制作活動には保護者が参加することにした。子どもは親と椅子をデザインすることで木育活動や木材に興味・関心を持てると考えられる。また、保護者は、制作活動に楽しくかかわることで、子どもに木育活動を通じて感じたことや学んだことをどのように伝えればよいかを工夫する良いきっかけになると考えられる。

### 2-2 木育活動の方法

#### （1）参加対象及び実施方法

本研究の木育活動の参加対象は、三重県内に居住する子育て家庭の親子8組である。親子が最も集まりやすく普段から安心して利用できることを条件とし、高田短期大学付属の育児文化研究センターのおやこひろばを利用している親子を対象とした。おやこひろばのスタッフより説明会を開き、参加希望者を募集した。また、木育活動を実践する場所は普段授業で使用している造形演習室であり、授業でも木育活動を行っているため、最も取り組みやすい環境であると判断した。ワークショップの流れは、表1のどおりであり、1次活動（デザイン）までは、順調に行われた。しかしながら、2020年3月5日に予定していたワークショップの2次活動（実践）は、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった。その後、4月10日（金）、三重県の「感染拡大防止緊急宣言」が発出されたことで、本短期大学の対面授業も実施できない状況まで事態が深刻になった。ワークショップの再開についても当分の間は対面で実施することは難しいと考えられ、非対面での方法を検討した。その結果、提出された椅子の背面と座面のデザイン通りに



図1 案内ポスター

## 木育に着目したワークショップ「子どもの椅子づくり」について

加工したパーツを主催側が組み立てておき、参加者が自宅でも仕上げることができるように、2次活動の内容を紙やすりあてと天然ワックスの塗布へ変更した。

ワークショップ実践後に行うアンケート調査については、研究の主旨、内容、アンケートの回答に必要な所要時間等を依頼書に示し、同意が得られた人を対象に実施した。調査方法は、依頼書にあるQRコードをスマートフォンで読み取り、回答する自記式調査である。これによって場所や時間を問わず、回答することができるよう配慮した。調査期間は、2020年9月1日（火）～10月9日（金）であり、調査内容としては、活動の取り組み等に関する意見を尋ねる項目を設けた。収集されたデータは、個人が特定されないように統計処理を行い、分析方法としては、単純集計を行った。なお、本研究は高田短期大学倫理審査委員会にて承認された（高短研審第20-2号）。

表1 ワークショップの概要

ワークショップの流れ	期間（日時）	場所	備考
参加者募集	2019年12月26日（木）～2020年1月16日（木）	託児は育児文化センターおやこひろば	参加者：8組
1次活動（デザイン）	参加者決定～2月4日（火）	参加者の自宅など（指定なし）	
木育活動の準備	2020年2月4日（火）～3月4日（水）	筆者のアトリエ	木材の加工
2次活動（実践）	2020年3月5日（木）10:30～12:00	高田短期大学造形演習室	託児あり
	2020年8月31日（月）～9月24日（木）	参加者の自宅など（指定なし）	※COVID-19のため、延期
参加者アンケート	2020年9月1日（火）～10月9日（金）	自記式調査（QRコード）	回答者：8名

### （2）使用木材について

本研究における木育活動では、地域資源である間伐材を活用した。間伐材は、密集している森林を間引きすることで生じる木材であるため、太さが約20cm前後である。建築材や家具材としても活用されているものの、間伐材についての理解がないまま使用することが多いと考えられる。本研究で使用する木材は、美杉産の桧であり、「津市林業振興室」の協力のもと、「美杉町木材協同組合」から提供された木材を使用した。美杉産の桧は、山林の15%に植栽されており（美杉の家建設株式会社）、高い品質とつややかな美しさが特徴である。提供された間伐材の桧は、形や太さが様々であり、節などもあるため、使いやすくするために工夫を施した。節の部分を除去し、背面や座面の場合は一定の幅が必要であるため、接ぎあわせを施すなど、参加者が扱いやすいように加工した（図2）。

### 3. 木育活動の内容

参加者の子どもは、ほとんど2歳児（参加者募集時、2019年12月の基準）であるため、2歳児の平均身長と体重に基づき、椅子の構造を検討した。座高については子どもの成長を勘案し、約20cmを基準にし、背面の角度は95度に設計しており、少しでも腰への負担を減らすよう工夫した。また、使用する子どもの平均体重に耐えられるよう頑丈な構造を独自で考案した。保護者が組み立てる際、初心者でも経験者でも構造を理解しやすく、スムーズに体験できるように計画した。



図2 加工済のデザイン例

今回の木育活動は、子どもと一緒にオリジナルの椅子をデザインすることと、椅子を組み立てることの2段階で実施する計画で進めたが、先述したように、第2次活動はコロナ禍で仕上げ作業のみとなつた。また、木育活動は、木育の取り組みについての理解を高める機会を設けたうえ、実体験に参加することが望ましいため、参加者募集の説明会にて活動の趣旨や目的等を説明することで、木育活動の理解が高められるように心がけた。

### 3-1 子どもと一緒にオリジナルの椅子をデザインする

椅子デザインについては、場所を設定せず、好きな時間に好きな場所で親子が作りたい椅子のデザインを自由に考えることにした。筆者があらかじめ作成したデザインシートをおやこひろばスタッフの協力のもとで参加者に配付し、自宅など、子どもとコミュニケーションが取りやすい環境で行うよう促した。デザインシートを配付する際、完成イメージがわかるようにあらかじめ実寸大の試作品(図3)を提示し、参加者がデザインする部分(背面、座面)のイメージが浮かびやすいように工夫した(図4、5)。また、デザインシートには背面と座面の枠が印刷され、その上に好きな形でデザインできるようにした(図6、7)。



図3 試作の椅子

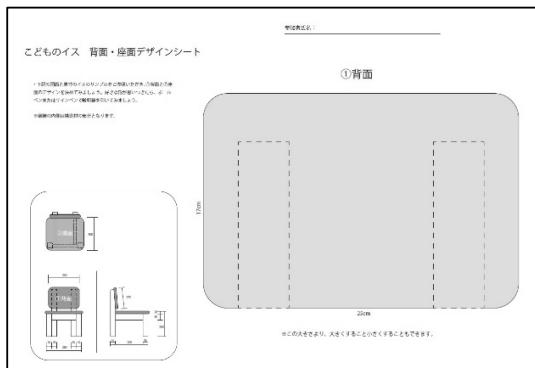


図4 デザインシート(図面、実寸大背面)

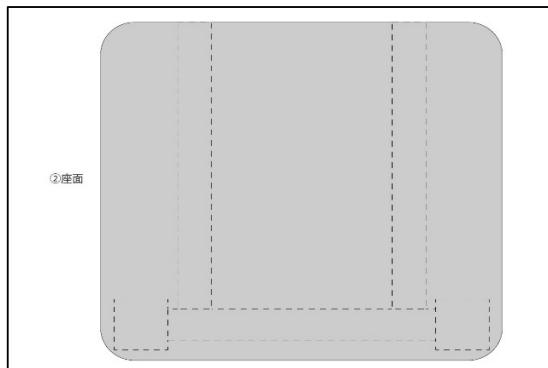


図5 デザインシート(実寸大座面)

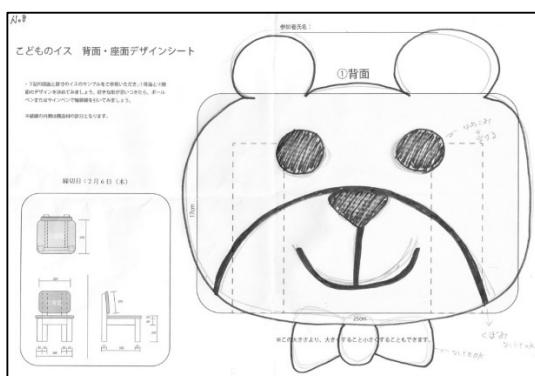


図6 子どもの椅子デザイン例(背面、参加者作成)

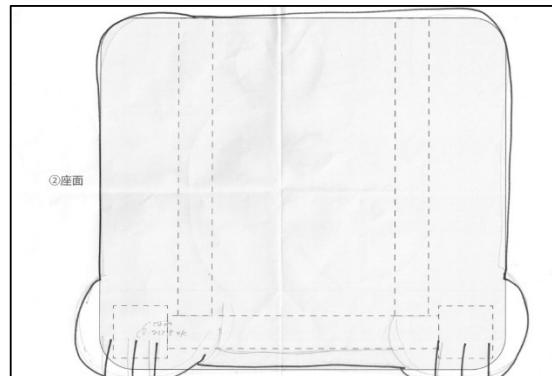


図7 子どもの椅子デザイン例(座面、参加者作成)

## 木育に着目したワークショップ「子どもの椅子づくり」について

親子がデザインシートに描いた背面と座面のデザインをもとに、木材加工を施して準備を進め、一部の加工については、保護者またはおやこひろばの担当者と打ち合わせをしながら加工範囲を調整した。

### 3-2 椅子を組み立てる

参加の子どもの年齢が4歳以上の中は、親子で椅子を組み立てることができるが、今回参加の子どもの年齢は2歳児であり、作業の困難さや道具の使用による危険な部分も伴うため、保護者のみ参加する計画であった。しかしながら、コロナ禍で参加者が組み立てる予定の工程を主催側が行ったうえ、非対面式のワークショップとして参加者の自宅にて実践することにした。また、参加者には2020年8月中旬にワークショップの再開のお知らせとともに、2020年8月24日～9月24日の期間中に、組み立て済みの椅子、仕上げ説明書、デザインスケッチ原本、仕上げに必要な物品をおやこひろばにて受け取るよう案内した（図8、9、10）。



図8 同封物仕上げのために同封した物



図9 参加者に渡すための組み立て済みの椅子



図10 仕上げ説明書

同封物は、紙やすり#240・#360各1枚、あて材（黒いウレタン、木片）各1個、天然ビーワックス30g（手製）、ワックス塗布用布2枚、使い捨て手袋、傷防止フェルト4枚、スケッチ原本、仕上げ説明書の8種類である。組み立て済みの椅子と同封物を受け取った参加者は、自宅で子どもと一緒に紙やすりあてで、木材の表面を平滑にすることや木材の角のね取りを実践して椅子の仕上げを体験することである。また、やすりあて後は木材の表面の木粉を取り払い、天然ビーズワックスを椅子本体に塗り込んで一日乾燥させることで活動は終了になる。着色する場合は、天然ビーズワックスの塗布前に好きな

カラーで着色するよう案内し、約 60~90 分程度で完成（やすりあてからワックス塗布まで）できるよう設定した。完成した作品についてはアンケート回答時に、写真撮影の協力を求めたうえ、おやこひろばスタッフまでメールにて提供するようお願いした（図 11）。



図 11 完成椅子の一部（参加者提供）

#### 4. アンケートの結果

アンケート調査の結果、ワークショップ参加者 8 組中、すべての参加者から回答が得られた。参加者の年齢は 30 代が 5 名、40 代が 3 名であり、一世帯あたりの子どもは 1~2 名になっている。また、子どもの年齢は 3 歳が多く、保育園に通っていない世帯の利用が多くみられる。参加者の基本属性は、表 2 に示す。

表 2. 参加者の基本属性

項目	区分	n	%
参加者の年齢	30 代	5	62.5%
	40 代	3	37.5%
参加子どもの人数 (一世帯あたり)	1 名	3	37.5%
	2 名	5	62.5%
参加子どもの年齢	2 歳	1	12.5%
	3 歳	7	87.5%

次に、「受け取った子どもの椅子はあなたがデザインしたイメージのとおりですか」については、「非常にそう思う」が 87.5%、「まあそう思う」が 12.5% であり（図 12）、ほとんどの参加者がデザインどおりの椅子を受け取ったと思っていることがわかる。「まあそう思う」の回答については、設備などのハード面において加工が難しいと判断し、主催側が最小限での修正を加えて加工した部分があったが、そのような状況を十分に伝えることができず、理解を得ることができなかつたと考えられる。

また、「椅子を完成するために提供されたものは十分でしたか」については、「非常にそう思う」が 62.5%、「まあそう思う」が 37.5% を占めた（図 13）。この結果については、仕上げ作業は参加者の自宅で行ったため、作業環境が十分に整えている場所での実施と比べ、必要な物品の範囲や量の提供に難しい

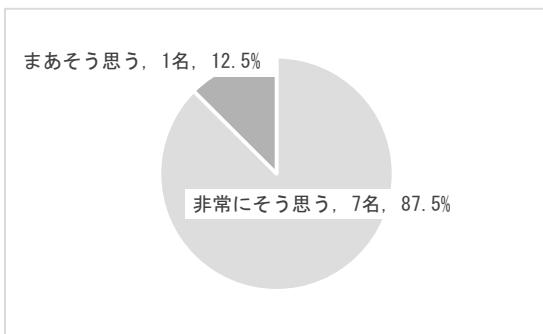


図 12 椅子のデザインについて

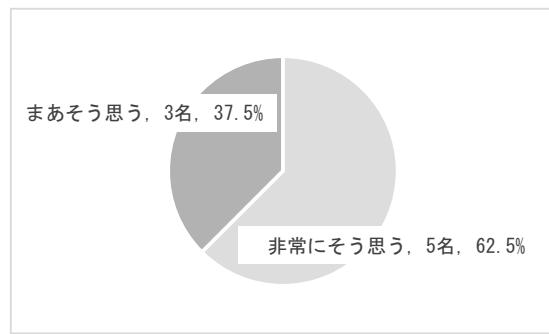


図 13 提供された物品の十分さ

## 木育に着目したワークショップ「子どもの椅子づくり」について

さがあると考えられる。例えば、作業に必要な新聞紙の場合、自宅に新聞紙があるという前提で配付しなかったが、新聞紙がない場合は、必要な物品が十分ではないと感じていることがうかがえる。

一方で、「準備物に必要なものや足りないもの」の問については回答が得られなかつたが、より円滑に実施ができるよう仕上げ用の物品を少し多めに同封するなどの工夫が必要であると考えられる。

次に「子どもの椅子の仕上げ説明書は活動に取り組むために役に立ちましたか」については、「非常にそう思う」が 87.5%、「まあそう思う」が 12.5%であり（図 14）、ほとんどの参加者は、問題なく説明書を参考に活動に取り組むことができたと考えられる。仕上げ説明書は、文章だけではなく、多くの写真を使用したため、視覚的にもわかりやすいと感じていることがうかがえる。

次に、「この活動を通して三重県の木育に関する意識や森林の理解・魅力度が高まりましたか」については、「非常にそう思う」が 75.0%、「まあそう思う」が 12.5%、「どちらともいえない」が 12.5%を占めた（図 15）。この結果について、今回は参加者を募集する際に、活動の趣旨等を説明したうえで実施したが、実践活動の前にもっと木育活動について理解を深める機会を提供する必要があると考えられる。具体的には木育の概論についての簡単な講義を設けることが有効な方法であるといえる。

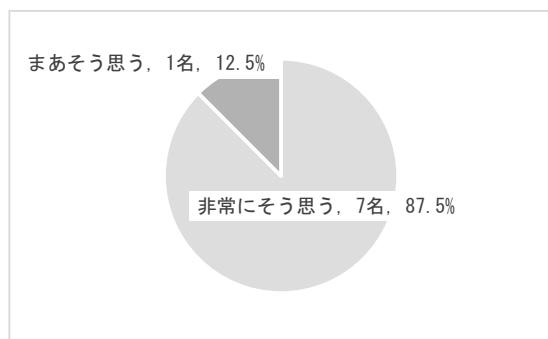


図 14 説明書のわかりやすさ

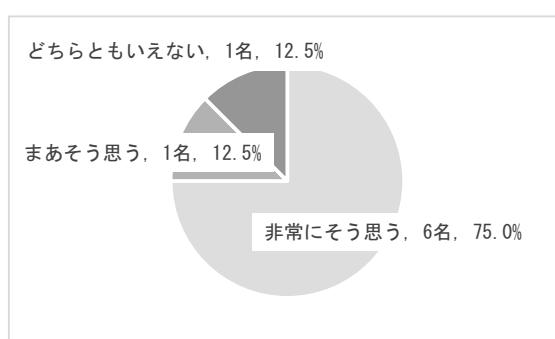


図 15 木育の意識や魅力の向上

その他、自由記述としては「仕上げ説明書がわかりやすかった」「釘を使っていないのも魅力的で、安心して娘が使える」「子どもにヤスリ等普段見せてあげることがなかなかできないので、良い機会になった」「子どもがとても喜んだ」などの肯定的な意見が多い反面、「コロナ禍の影響で予定どおりに実施することができなかつたことが残念」という意見も複数見られた。最初の計画では、参加者に高田短期大学の造形演習室で椅子の組み立て活動を行うと説明したが、コロナ禍で実施方法を非対面式に変更せざるを得なかつたため、参加者が残念に思うのはよく理解できる。今後、参加者がより主体となって体験できるよう、様々な状況を想定しながら、木育活動の計画を検討していくことが課題である。今回は、多くの参加者より肯定的な意見が寄せられており、おおむね順調にワークショップを行うことができたと評価できる。

## 5. まとめ

本研究では、子育て家庭の親子を対象に、三重県の「森林環境教育・木育の推進」と「野外体験保育」の取り組みを参考に、「津市林業振興室」と「美杉町木材協同組合」の協力のもとで木育活動を展開し

た。今回の木育活動は、椅子のデザインを親子で考え、親の手で作り、子どもが使用するという連続的かつ連帶感が生まれる活動として企画した。世界に一つしかないオリジナル椅子を親子で作り上げる感動は、言葉で表現できない大切な思いになると考えられる。また、子どもと親が一緒に一つのことについて話し合い、そしてその成果物を使用することは、家族の絆を深めることにつながると考えられる。

家庭で使用する椅子は、買うものという認識が強いことから考えると、地域資源を生かし、自ら作り上げることで、愛着が生まれると同時に、様々なモノづくりへの興味・関心が高まり、木育活動の範囲を広げるきっかけにもなると考えられる。参加者アンケートからは、これから木育ワークショップがあればぜひ参加したいという積極的な意見も寄せられた。このようなことは、木育活動が目指す「人の暮らしをよりよくすること」につながるため、継続的に取り組む必要があると考えられる。さらに、木材だけではなく、木の実、木の枝、葉っぱなどを新たに木育活動に取り入れることで、親子が木育を身近に感じることができると考えられる。また、このような木育活動を通じて間伐材の付加価値を高める効果と、同時に人の暮らしの一層豊かになると期待でき、地域の自然環境への意識も高まると考えられる。

### 【引用・参考文献】

- 林 韓燮 (2014) 「木育に着目した幼児造形の試み」『中部大学現代教育学研究紀要』(7) , pp.1-10.
- 桑田 奈々ほか (2016) 「木を身边に感じさせる遊び気になる！の活動報告」『日本デザイン学会研究発表大会概要集』(63) , pp.432-433.
- 国土緑化推進機構 (2019) 『森と自然を活用した保育・幼児教育ガイドブック』風鳴舎, pp.27-29, p.146.
- 三重県ホームページ (2018) 「平成 30 年度 森林環境教育・木育活動事例集」  
(<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000863758.pdf>, 閲覧日 2020 年 2 月 20 日)
- 美杉の家建設株式会社ホームページ「美杉町木材協同組合」  
(<http://www.zb.ztv.ne.jp/misugi-ie/investor/mokuzai/index.html>, 閲覧日 2020 年 2 月 20 日)
- 矢野 真 (2019) 「保育者養成におけるコミュニケーション能力を育成するための造形教材の開発Ⅲ」『京都女子大学発達教育学部紀要』(15) , pp.131-138.